【公民館作成】　事業評価資料　　　　　　　　　　　　　　　　　志津　　　　公民館　No. 1

事業名	親子で作ろう　やさしい寄せ植え				
ジャンル	家庭教育　・　青少年教育（○）　・　成人教育　・　団体育成				
日程	12月18日(土)	講師	日本ハンギングバスケット協会 高橋　洋子	参加費	2,500円（材料費）
対象者	小学生と保護者	参加者数（延べ）	２３人（審議委員等を含む）	募集方法	チラシ
趣旨	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、家で過ごす機会が増えたが、スマートフォンの普及により、ひとりゲームなどをして過ごすことが多い。そこで、親子で協力して製作する時間とし、コミュニケーションを図る機会とする。また、寄せ植えを習得し、きれいなまちづくりの一助とする。				
内容	親子で葉牡丹等の植物を使い寄せ植えを行い、できあがった寄せ植えの手入れ方法を学ぶ。				
工夫	親子で協力してひとつの寄せ植えを製作することで、親子のコミュニケーションを図る。また、寄せ植えを習得し、近所の方に伝えることで、地域連携や、きれいなまちづくりの一助とする。				
成果	親子で協力して楽しみながら華やかな寄せ植えができあがった。このことにより親子で何かを行う事に対しての自信や達成感につながったと思われる。				
課題	本講座の募集対象は全学年とした、参加者の８割が低学年であった。アンケート結果は保護者・児童ともに好評であったが、児童の集中力が続かない組もあり、低学年には少々ハードルが高いように思われた。				

【公民館による事業評価】

項目	評価	視点
必要性	A	・公民館が行う必要があるか。　・目的や役割が薄れていないか。 ・市民や利用者のニーズに合っているか。　・事業の休止・廃止した場合の影響は大きいか。
優先性	A	・事業の優先度は高いか。
公平性	A	・対象者に情報は流れているか。　・受益者負担はあるか(実費・教材費）
有効性	B	・期待通りの成果が得られているか。 ・さらに成果を高めるためにやり方の見直しは必要か。　・市民の満足度は高いか。
効率性	A	・事業の効率性はどうか。　・他事業との統合は考えられるか。 ・事業運営に学習者が参画しているか。
総合評価	B	Ａ：適切で成果が得られている。　Ｂ：課題あり、成果はある程度ある。 Ｃ：課題あり、成果があまりない。　Ｄ：成果が得られていない。
特記	小学校低学年生にはハードルの高い内容のため、来年度以降は高学年に絞って募集をかけることを検討したい。	

《凡例》 良い ← A　B　C　D　良くない

《判定例》 AAA → [A]　ABA → [A]　ABB → [B]　AA → [A]　AB → [A or B]

次年度展望	②	①：事業拡大　②：現状規模で継続　③：事業縮小 ④：目的達成により終了　⑤：統合・改善・その他

☆公民館運営審議委員付帯意見

（A：適切で成果あり　B：成果はあるが、改善の余地あり　C：要改善）

委員	総合評価	意見
委員①	A	（特になし）
委員②	B	親子で協力して製作し、コミュニケーションを図るとともにきれいなまちづくりの一助とする趣旨は良いと思います。葉牡丹等の寄せ植えは、どちらかというと子どもより保護者が関心を持って参加したのではないでしょうか。低学年にはハードルが高いので、高学年に対象を絞るという考えもあるかもしれませんが、低学年でも興味を持と、保護者と一緒に取り組める素材があると良いかと思います。
委員③	A	コロナ禍での社会教育で、密を避けて家庭でも楽しめるよい企画だと思いました。できあがったものを飾り楽しんだり、さらに製作してきれいな街づくりに貢献したりと、広がる夢のある事業です。 事業継続にあたり、高学年中心にシフトしていくなど、次年度の発展を見据えた自己評価もあり、期待できると思いました。 次年度展望　①
委員④	A	日々、親も忙しい時間を過ごしている人も多い時代、親子でいっしょにできる事は、良いとりくみだと思います。 寄せ植え、華やかでいいですね。
委員⑤	A	良い企画であったと思うが、集中力が続かない低学年の児童にはやりとげた感覚を味わえるコンパクトサイズにするなどの配慮があったら良かったと思う。ただし、親子で協力し絆を深められる点は成果であったと思う。
委員⑥	A	コロナ感染症拡大防止の観点から子どもがひとりでゲーム等で過ごすことが多くなりました。そこで、親子でコミュニケーションをとりながら寄せ植えを作る作業は達成感も味わうことができ、いいところに着眼したと思いました。
委員⑦	A	寄せ植えを通じて親子関係をより良いものにするのがねらいの一つと思います。参加する方々は日頃から結構いい関係にある親子が多いんじゃないかなあとついつい勘ぐってしまいます。この事業のおかげで親子の会話の機会が増えましたというような感想を後日聞けたら主催者とすれば最高ですね。
委員⑧	A	親子で協力しあって寄せ植えを製作することにより親子間のコミュニケーションと達成感を得る機会づくりの一助となるため今後も継続を望みます。

委員⑨	
総合評価	B

「親子で共に寄せ植えを作る」という事業は良い企画だと思います。
「やさしい寄せ植え」とは言え、低学年の児童には「やさしくなかった」のかもしれません。
来年度以降は高学年に絞る方向は良いと思います。

委員⑩	
総合評価	A

講師に専門家を招き、指導を受けながら親子で寄せ植えを作る作業で、親子のコミュニケーションの高揚を図れる事業として効果を上げられたと思います。写真を見るとできあがった寄せ植えもきれいで完成度も高く、親子共同の作業が実った結果であり、親子ともども満足された様子が見受けられます。青少年教育事業の一環として、親子のコミュニケーションを図れる事業は、その場を提供するとともに親子を支援することが非常に大事です。これからもコミュニケーションを図れる事業の展開をお願いします。

委員⑪	
総合評価	A

新型コロナ禍の運営の方法に、取り組みに評価を感じます。
新しい生活様式にふりまわされる中、ステイホームの日々の毎日に、家族とコミュニケーションを図る事業実施。小学生と保護者だけの実施から、もう少し幅を広げても、最と良かったかなと感じる企画だったと思います。

委員⑫	
総合評価	B

課題に書かれているとおり、低学年の児童が参加する事業は、集中力が散漫となり、事業がうまく進まないことがあると思います。また、寄せ植えは低学年には興味を持続することは難しいのでしょう。今後、親子の視点で考えるのであれば、調理室を使ったスイート作り等が好まれるかもしれません。ただ、対象はやはり高学年の児童とするべきだと思います。

委員⑬	
総合評価	B

親子で話し合い工夫しながら植え付けし、参加者はそれぞれに楽しんでいたように感じました。しかし、参加した小学生は本当にやってみたい事でしたのでしょうか。

委員⑭	
総合評価	A

クリスマス近くのタイムリーな講座でした。小学校低学年には、寄せ植えは時間的にも内容的にも難しかったように思えます。それでも、持ち帰った寄せ植えに水やりなどして世話をすることで、植物に興味を持つきっかけになるのではと感じます。公民館活動はシニア向けが多くなるようですが、親子で楽しむ講座や子供向け講座などの企画を期待します。

委員⑮	
総合評価	A

・コロナ禍の課題として考えられることの中から、親子で活動することを取り上げたことは良かったと思います。参加者が低学年が多かったことは、保護者側に高学年を参加させきれない背景があるかもしれません。塾とか、もう親の言うことは聞かないとか。でも、短期で考えるのではなく長期の視点で考えれば、今回の参加者はのちに今回の体験を生かすことが選択肢になることと思います。

・コロナ禍でスマホやコンピュータによるゲーム依存の子供が増えている現実に、地域の主体の一つ、公民館が対策を考えることは、保護者にとってもとても意義深いと思います。

・公民館が計画して親子で活動することは、他の家族との触れ合いの機会にもなりますから、継続的に講じた事業を講じていただけるとよいと思います。